

施策評価(平成29年度)

1 基本項目

基本目標	1	生涯を通じて学び育つまち
基本施策	2	学校教育の充実と次代を担う子ども・若者の育成
施策	4	子ども・若者
基本方針		
子どもや若者が、社会の一員として、心豊かで健やかに成長するよう、支援します。		

2 事後評価結果

計画事業名	進捗状況	妥当性 (必要性)	効率性 (手法)	有効性 (成果)	今後の 方向性
子どもや若者の育成支援	次年度以降計画を見直す	A	A	B	現状のまま継続
児童館事業の充実	次年度以降計画を見直す	A	A	B	現状のまま継続
学童クラブ事業の充実	次年度以降計画を見直す	A	A	B	現状のまま継続
放課後子ども教室の推進	計画どおり完了	A	A	A	現状のまま継続

3 施策評価結果

<p>施策4「子ども・若者」では、4事業について評価を実施した。</p> <p>進捗状況については、1事業が「計画どおり完了」、3事業が「次年度以降計画を見直す」としており、1事業は次年度策定する計画に合わせて継続して検討すること、2事業は国から示された方針などにに基づき、継続して検討することとしており、施策全体としては、滞りなく履行されている。</p> <p>各事業における妥当性(必要性)、効率性(手法)については、すべてA(適切なもの)と評価している。</p> <p>有効性(成果)については、1事業はA(適切なもの)と評価しており、「子どもや若者の育成支援」については、子ども・若者支援地域協議会(仮称)の設置検討にあつて、子ども・子育て支援事業計画の策定に合わせて検討していくこと、「児童館事業の充実」及び「学童クラブ事業の充実」については、経営形態や運営方法を今後も継続して検討することから、B(課題があり、今後改善が必要なもの)と評価している。</p> <p>これらを踏まえた結果、施策4「子ども・若者」については、生じている課題について必要な見直しを図って事業を推進していくこととしており、今後の方向性は、すべての事業について、引き続き「現状のまま継続」していくこととする。</p>
--

1.基本項目

事業名		作成部署	子ども家庭部		児童青少年課	
00 子どもや若者の育成支援		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	プロジェクト
		平成 29 年	継続	自治事務	業務委託(一部)	
01		年				
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	4	子ども・若者	重点事業No.	1

2.事業の概要

施策の基本方針	子どもや若者が、社会の一員として、心豊かで健やかに成長するよう、支援します。
事業内容	若年無業者(ニート)やひきこもりなど若者の自立をめぐる問題や、児童虐待、いじめ、不登校、有害情報の氾濫などの課題に対応するとともに、子ども・若者支援地域協議会(仮称)の設置を検討します。また、ひきこもり等の問題を抱える若者やその家庭を支援するため、講演会や相談会などを実施します。
根拠法令	子ども・若者育成支援推進法
条例	
要綱等	

3.実施計画

Plan【計画】	平成28年度(現況)	3か年計画		
		平成29年度	平成30年度	平成31年度
事業内容 事業量等	子ども・若者支援地域協議会(仮称)の設置検討 自立等支援事業の情報収集及び実施方法の検討	同左 ひきこもりに関する講演会の実施 民生・児童委員向け講演会の実施	子ども・若者支援地域協議会(仮称)の設置検討結果の反映 ひきこもりに関する講演会の実施 相談会 4回 家庭訪問 4件	同左

4.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①年間業務時間(人件費の目安) 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成28年度(現況)		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	40H	1人	40H	1人	40H	1人	40H
主事・主任職	1人	50H	1人	50H	1人	50H	1人	50H

②事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成28年度(現況)	平成29年度	平成30年度	平成31年度
事業費		65	559	559
人件費(係長職)	199	199	199	199
人件費(主任・主事職)	170	170	170	170
総事業費(合計)	369	434	928	928
国庫支出金				
都支出金			279	
受益者負担額				
その他特定財源				
一般会計繰入金				
起債				
一般財源(人件費含む)	369	434	649	928
財源内訳(合計)	369	434	928	928

③コスト計算

ア 市民 56,079 人における1人あたりのコストは、 円
 イ 対象者 22,739 人における1人あたりのコストは、 円
 ウ 成果(物) の出来高 のコストは 円

※ 対象者: 子ども・若者(0歳~39歳まで)の人数

Do(実行)

5.実施結果

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①指示事項・改善

無 <input type="checkbox"/>	有 <input checked="" type="checkbox"/>	指示事項・改善内容 子どもや若者が健やかに成長し、円滑に社会生活を営むことができるよう、子ども・若者計画の策定に向けた必要な検討を進めること。
-------------------------------	--	--

②活動実績

ひきこもりに関する講演会の開催(2回)、民生委員・児童委員向けは45名、一般市民向けは30名の参加があった。
ひきこもり相談会(2回)、2名の参加があった。

③投入実績

決算の内訳(単位:千円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	65		65	50	76.9%

年間業務時間(人件費の目安)	当初計画		実績	
	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	40H	1人	40H
主事・主任職	1人	50H	1人	50H

④事業量(活動量)

実施計画	今年度実績
子ども・若者支援地域協議会(仮称)の設置検討 ひきこもりに関する講演会の実施 民生・児童委員向け講演会の実施	子ども・若者支援地域協議会(仮称)の設置への情報収集 ひきこもりに関する講演会 1回、相談会2回 民生・児童委員向け講演会の実施 1回

Check(評価)

6.事業の評価 S…より適切なもの A…適切なもの B…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	課長評価
妥(必要性) <input checked="" type="checkbox"/> 上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業である <input type="checkbox"/> 今の社会情勢に見合う事業である <input type="checkbox"/> 利用者・対象者のニーズ(需要)がある <input type="checkbox"/> その他()	A
効(手法) <input checked="" type="checkbox"/> 最少の人件費・事業費で事務が執行されている <input type="checkbox"/> 民間活力を活用している <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続きを簡略化・簡素化している <input type="checkbox"/> その他()	A
有(成果) <input checked="" type="checkbox"/> 計画の事業量に達しなかった <input type="checkbox"/> 計画の事業量に達した <input type="checkbox"/> 計画以上の事業量を達成した <input type="checkbox"/> 事業の目標が達成された <input type="checkbox"/> 事業の効果が表れている <input type="checkbox"/> 施策の基本方針推進するうえで具体的な成果があった	B

7.「施策の基本方針」に対する本事業の評価

講演会や相談会を開催することで、子どもや若者が、社会の一員として、心豊かで健やかに成長するよう支援することができた。
子ども・若者支援地域協議会(仮称)の設置検討にあつては、子ども・子育て支援事業計画の策定に合わせ検討していく。

Action(改善)

8.今後の方向性

現状のまま継続 レベルアップ 縮小 実施主体の見直し 休止・廃止 完了

【改善点】

市民が市開催の相談会に行くのは、知人に会う可能性もあり、相談しづらいことも想定されるので、広域的に実施できないか検討する。

【今後の取組方針】

ひきこもりなど自立をめぐる問題を抱える若者やその家庭を支援するため、ひきこもりに関する講演会を引き続き開催するとともに、広報紙等により支援機関である東京都ひきこもりサポートネットを周知していく。

1.基本項目

事業名		作成部署		子ども家庭部		児童青少年課	
00 児童館事業の充実		開始年度	昭和 57 年	実施期間	継続	事業種別	自治事務
			年			運営手法	直営
			年			プロジェクト	○
			年				
			年				
			年				
			年				
関連課							
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	4	子ども・若者	重点事業No.	2	

2.事業の概要

施策の基本方針	子どもや若者が、社会の一員として、心豊かで健やかに成長するよう、支援します。
事業内容	子どもの活動を支える中心的施設である児童館で実施する各種事業や各種機器・設備の充実に努めるとともに、経営形態や運営方法について検討・充実するなかで、子どもの居場所を確保していきます。
根拠法令	
条例	羽村市児童館条例
要綱等	羽村市児童館条例施行規則

3.実施計画

Plan【計画】	平成28年度(現況)	3か年計画		
		平成29年度	平成30年度	平成31年度
事業内容 事業量等	児童館の管理・運営 3館	同左 3館	同左 3館	同左 3館
	杏林大学等との連携事業の実施	同左	同左	同左
	管理運営に関する民間活用方針の決定	活用方針に沿った民間活力の導入の検討 ※事業を検討する中で、事業費を算出	民間活用による事業の充実	同左
	西児童館視聴覚備品の整備等			

4.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①年間業務時間(人件費の目安) 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成28年度(現況)		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1 人	120 H	1 人	120 H	1 人	120 H	1 人	120 H
主事・主任職	1 人	450 H	1 人	450 H	1 人	450 H	1 人	450 H

②事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成28年度(現況)	平成29年度	平成30年度	平成31年度
事業費	28,942	31,443	-	-
人件費(係長職)	597	597	597	597
人件費(主任・主事職)	1,530	1,530	1,530	1,530
総事業費(合計)	31,069	33,570	2,127	2,127
国庫支出金				
都支出金				
受益者負担額				
その他特定財源				
一般会計繰入金				
起債				
一般財源(人件費含む)	31,069	33,570	2,127	2,127
財源内訳(合計)	31,069	33,570	2,127	2,127

③コスト計算

ア 市民	56,079	人における1人あたりのコストは、	599	円
イ 対象者	9,471	人における1人あたりのコストは、	3,545	円
ウ 成果(物)		の出来高		円
			のコストは	

※ 対象者:平成29年度青少年人口(0~18歳)

Do(実行)

5.実施結果

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①指示事項・改善

無	有	指示事項・改善内容
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	学童クラブ・児童館については、それぞれに設置の目的や趣旨があり、運営方法の検討や充実を図る上では、他自治体における実施の状況もよく研究し、課題や効果を整理した上で、方向性をしっかりと見定め、庁内の関係部署とも十分に協議、検討を重ね、総合的に計画していくこと。

②活動実績

新たにプロジェクトチームを設置し、児童館の現状や課題について計2回検討した。
 また、26市の児童館の管理・運営方法について調査を実施した。
 児童館事業については、年間を通じて様々な事業を実施した。
 杏林大学との連携事業では、大学から講師の派遣を無償で受けて児童館及び学童クラブ、放課後子ども教室の職員に対し発達障害に関する研修会を1回実施し、職員の知識向上を図ったほか、学生ボランティア1名が、中央児童館のウィンターフェスティバル事業に参加した。

③投入実績

決算の内訳(単位:千円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	31,443	▲ 1,606	29,837	29,032	97.3%

年間業務時間(人件費の目安)	当初計画		実績	
	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	120 H	1人	120 H
主事・主任職	1人	450 H	1人	450 H

④事業量(活動量)

実施計画	今年度実績
児童館の管理・運営 3館 杏林大学等との連携事業の実施 管理運営に関する民間活用方針に沿った民間活力の導入の検討	⇒ 児童館の管理・運営 3館 杏林大学等との連携事業 講演会1回、ボランティア1名 民間活力の導入の検討 2回

Check(評価)

6.事業の評価 S…より適切なもの A…適切なもの B…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	課長評価
妥(必要性) <input checked="" type="checkbox"/> 上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業である <input type="checkbox"/> 今の社会情勢に見合う事業である <input type="checkbox"/> 利用者・対象者のニーズ(需要)がある <input type="checkbox"/> その他 ()	A
効(手法) <input checked="" type="checkbox"/> 最少の人件費・事業費で事務が執行されている <input type="checkbox"/> 民間活力を活用している <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続きを簡略化・簡素化している <input type="checkbox"/> その他 ()	A
有(成果) <input checked="" type="checkbox"/> 計画の事業量に達しなかった <input type="checkbox"/> 計画の事業量に達した <input type="checkbox"/> 計画以上の事業量を達成した <input type="checkbox"/> 事業の目標が達成された <input type="checkbox"/> 事業の効果が表れている <input type="checkbox"/> 施策の基本方針推進するうえで具体的な成果があった	B

7.「施策の基本方針」に対する本事業の評価

児童館では、年間を通じて様々な事業を実施し、子どもの健やかな成長を支援することができた。
 民間活力の導入の検討については、今後も継続して検討していく。

Action(改善)

8.今後の方向性

現状のまま継続 レベルアップ 縮小 実施主体の見直し 休止・廃止 完了

【改善点】

児童館事業への参加者の増加に向けて、周知・PR方法の検討を行う。

【今後の取組方針】

経営形態や運営方法については、今後も継続して検討していく。
 児童館事業については、年間を通じて事業を計画的に実施していくよう、児童館コーディネーターと調整を図っていく。

平成29年度 【基本シート】

1.基本項目		作成部署	子ども家庭部		児童青少年課	
事業名		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	プロジェクト
00 学童クラブ事業の充実		昭和 47 年	継続	自治事務	直営	○
01			年			
02			年			
03			年			
04			年			
05			年			
関連課						
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	4	子ども・若者	重点事業No.	3

2.事業の概要

施策の基本方針	子どもや若者が、社会の一員として、心豊かで健やかに成長するよう、支援します。
事業内容	経営形態や運営方法について検討し、家庭に代わる児童の生活の場となる学童クラブ事業の充実を図ります。
根拠法令	
条例	羽村市学童クラブ条例
要綱等	羽村市学童クラブ条例施行規則

3.実施計画

Plan【計画】	平成28年度(現況)	3か年計画		
		平成29年度	平成30年度	平成31年度
事業内容 事業量等	学童クラブの運営・管理 12学童クラブ 管理運営に関する民間活用方針の決定	同左 12学童クラブ 活用方針に沿った民間活用の導入の検討 ※事業を検討する中で、事業費を算出	同左 12学童クラブ 民間活用による事業の充実	同左 12学童クラブ 同左

4.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①年間業務時間(人件費の目安) 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成28年度(現況)		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	360H	1人	360H	1人	360H	1人	360H
主事・主任職	1人	1,500H	1人	1,500H	1人	1,500H	1人	1,500H

②事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成28年度(現況)	平成29年度	平成30年度	平成31年度
事業費	80,396	87,322	-	-
人件費(係長職)	1,791	1,791	1,791	1,791
人件費(主任・主事職)	5,099	5,099	5,099	5,099
総事業費(合計)	87,286	94,212	6,890	6,890
国庫支出金	18,960	21,808		
都支出金	24,701	27,585		
受益者負担額				
その他特定財源	26,157	27,529		
一般会計繰入金				
起債				
一般財源(人件費含む)	17,468	17,290	6,890	6,890
財源内訳(合計)	87,286	94,212	6,890	6,890

③コスト計算

ア 市民	56,079	人における1人あたりのコストは、	1,680	円
イ 対象者	636	人における1人あたりのコストは、	148,132	円
ウ 成果(物)		の 出来高		円

※ 対象者: 定員

Do【実行】

5.実施結果

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①指示事項・改善

無	有	指示事項・改善内容
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	学童クラブ・児童館については、それぞれに設置の目的や趣旨があり、運営方法の検討や充実を図る上では、他自治体における実施の状況もよく研究し、課題や効果を整理した上で、方向性をしっかりと見定め、庁内の関係部署とも十分に協議、検討を重ね、総合的に計画していくこと。

②活動実績

新たにプロジェクトチームを設置し、学童クラブの現状や課題、待機児童対策について計2回検討した。開催し、26市の学童クラブの運営状況について調査を実施した。
また、学校内で学童クラブを運営している福生市・日野市を視察し、市内にある自主学童クラブも視察した。

③投入実績

決算の内訳(単位:千円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	87,322	3,408	90,730	88,882	98.0%

年間業務時間(人件費の目安)	当初計画		実績	
	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	360 H	1人	360 H
主事・主任職	1人	1,500 H	1人	1,500 H

④事業量(活動量)

実施計画	今年度実績
学童クラブの運営・管理 管理運営に関する民間活用方針に沿った民間活力の導入の検討	⇒ 学童クラブの運営・管理 12学童クラブ 民間活力等の導入の検討 2回

Check【評価】

6.事業の評価 S…より適切なもの A…適切なもの B…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	課長評価
妥(必要性) <input checked="" type="checkbox"/> 上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業である <input type="checkbox"/> 今の社会情勢に見合う事業である <input type="checkbox"/> 利用者・対象者のニーズ(需要)がある <input type="checkbox"/> その他 ()	A
効(手法性) <input checked="" type="checkbox"/> 最少の人件費・事業費で事務が執行されている <input type="checkbox"/> 民間活力を活用している <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続きを簡略化・簡素化している <input type="checkbox"/> その他 ()	A
有(成果性) <input checked="" type="checkbox"/> 計画の事業量に達しなかった <input type="checkbox"/> 計画の事業量に達した <input type="checkbox"/> 計画以上の事業量を達成した <input type="checkbox"/> 事業の目標が達成された <input type="checkbox"/> 事業の効果が表れている <input type="checkbox"/> 施策の基本方針推進するうえで具体的な成果があった	B

7.「施策の基本方針」に対する本事業の評価

12学童クラブを管理・運営する中で、一部待機児童が発生したが、心豊かで健やかに成長するよう支援することができた。
民間活力等の導入の検討を2回開催したが、今後も継続して検討していく。

Action【改善】

8.今後の方向性

現状のまま継続 レベルアップ 縮小 実施主体の見直し 休止・廃止 完了

【改善点】

待機児童対策については、公共施設の活用や民間への委託について検討する必要がある。

【今後の取組方針】

経営形態や運営方法、待機児童対策については、継続して検討していく。

1.基本項目

事業名		作成部署	子ども家庭部		児童青少年課	
00 放課後子ども教室の推進		開始年度	実施期間	事業種別	運営手法	プロジェクト
		平成 23 年	継続	自治事務	直営	○
01		年				
02		年				
03		年				
04		年				
05		年				
関連課						
基本目標 1	生涯を通じて学び育つまち	施策区分	4	子ども・若者	重点事業No.	4

2.事業の概要

施策の基本方針	子どもや若者が、社会の一員として、心豊かで健やかに成長するよう、支援します。
事業内容	放課後子ども教室を推進するため、地域の協力を得て、見守りや自主的な活動を支援していきます。
根拠法令	
条例	
要綱等	羽村市放課後子ども教室実施要綱

3.実施計画

Plan【計画】	平成28年度(現況)	3か年計画		
		平成29年度	平成30年度	平成31年度
事業内容 事業量等	ボランティアの協力による放課後子ども教室の運営 小学校7校	同左 小学校7校	同左 小学校7校	同左 小学校7校
	ボランティア参加への呼びかけ	同左	同左	同左
		コーディネーター体制の充実 (地域との連携強化等)	同左	同左

4.投入指標(成果の達成、及び活動するために投入する資源【ヒト・モノ・カネ】)

①年間業務時間(人件費の目安) 【事務執行に要する人数と1人当たりの年間業務時間】

職層・職種別	平成28年度(現況)		平成29年度		平成30年度		平成31年度	
	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	50H	1人	50H	1人	50H	1人	50H
主事・主任職	1人	300H	1人	300H	1人	300H	1人	300H

②事業費

事業費の内訳(単位:千円)	平成28年度(現況)	平成29年度	平成30年度	平成31年度
事業費	5,755	5,799	5,799	5,799
人件費(係長職)	249	249	249	249
人件費(主任・主事職)	1,020	1,020	1,020	1,020
総事業費(合計)	7,024	7,068	7,068	7,068
国庫支出金				
都支出金	3,719	3,698	3,698	3,698
受益者負担額				
その他特定財源				
一般会計繰入金				
起債				
一般財源(人件費含む)	3,305	3,370	3,370	3,370
財源内訳(合計)	7,024	7,068	7,068	7,068

③コスト計算

ア 市民	56,079	人における1人あたりのコストは、	126	円
イ 対象者	1,205	人における1人あたりのコストは、	5,866	円
ウ 成果(物)		の出来高		円
		のコストは		円

※ 対象者：放課後子ども教室登録人数(H29.8月末)

Do(実行)

5.実施結果

計画どおり完了 計画を見直し完了(次年度以降計画を見直す) 遅延 中断

①指示事項・改善

無	有	指示事項・改善内容
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

②活動実績

小学校全校で実施しており、年14回放課後子ども教室運営委員会を実施した。
また、今年度は参加児童及び指導員に対し、今後の運営についての検討資料とするためにアンケートを実施した。

③投入実績

決算の内訳(単位:千円)	予算額(当初)	補正・流用額	予算額(最終)	決算額	執行率
事業費	5,799	1,500	7,299	6,675	91.5%

年間業務時間(人件費の目安)	当初計画		実績	
	人数	概算時間	人数	概算時間
係長職	1人	50 H	1人	50 H
主事・主任職	1人	300 H	1人	300 H

④事業量(活動量)

実施計画	今年度実績
ボランティアの協力による放課後子ども教室の運営 ボランティア参加への呼びかけ コーディネーター体制の充実(地域との連携強化等)	⇒ ボランティアの協力による放課後子ども教室の運営 7校 ボランティア参加への呼びかけ 市広報、シルバー人材センター等 コーディネーター体制の充実(地域との連携強化等) 1名増員

Check(評価)

6.事業の評価 S…より適切なもの A…適切なもの B…課題があり、今後、改善が必要なもの

項目	課長評価
妥(必要性) <input checked="" type="checkbox"/> 上位施策(基本目標・施策)を達成する為に必要な事業である <input type="checkbox"/> 今の社会情勢に見合う事業である <input type="checkbox"/> 利用者・対象者のニーズ(需要)がある <input type="checkbox"/> その他 ()	A
効(手法) <input checked="" type="checkbox"/> 最少の人件費・事業費で事務が執行されている <input type="checkbox"/> 民間活力を活用している <input type="checkbox"/> 業務の進め方や手続きを簡略化・簡素化している <input type="checkbox"/> その他 ()	A
有(成果) <input type="checkbox"/> 計画の事業量に達しなかった <input checked="" type="checkbox"/> 計画の事業量に達した <input type="checkbox"/> 計画以上の事業量を達成した <input type="checkbox"/> 事業の目標が達成された <input type="checkbox"/> 事業の効果が表れている <input type="checkbox"/> 施策の基本方針推進するうえで具体的な成果があった	A

7.「施策の基本方針」に対する本事業の評価

小学校全校で実施しており、ボランティア等の地域の協力を得て実施している。
アンケートでも、9割以上の児童が楽しいと感じており、施策の基本方針に対し効果を発揮していると考えられる。

Action(改善)

8.今後の方向性

現状のまま継続 レベルアップ 縮小 実施主体の見直し 休止・廃止 完了

【改善点】

ボランティアの発掘を積極的に行っていく。

【今後の取組方針】

放課後子ども教室の充実に向けて、引き続き学校と協議検討していく。
遊具の補充やボランティアを活用し、事業の充実を図っていく。